

令和6年度(2024年度)陸奥湾マダラ稚魚分布調査結果について

2024年5月13日~14日、6月4日~6日の2回、それぞれ陸奥湾の8調査点で試験船青鵬丸(65トン)のオッタートロール海底曳によるマダラ稚魚の分布調査を行いましたので、結果をお知らせします。

マダラ稚魚の採捕尾数は、5月は17,806尾、6月は6,239尾と、5月に多く採捕されました。

図1に5月の地点別の分布密度を示しました。最も高かった地点はSt.4で195尾/1,000m²でした。この他、2021年以降、4年連続で全調査地点において分布が確認されました。また、地点別標準体長別の採捕尾数を表1に示しました。標準体長のピークはSt.1の48mmが最大でした。

図2に分布密度の平均値と最高値の経年変化を示しました。2024年5月の平均分布密度及び分布密度の最高値は8年間で3番目に高い値であり、近年、親魚として多く漁獲されている2017年級群並みの稚魚豊度となっています(図2)。

2023年漁期(4月~翌年3月)の陸奥湾(竜飛~奥戸)のマダラ漁獲量は、2,700トンを超え、1981年漁期以降で最多となりました。2016年漁期以降、1,000トンを超える漁獲が継続していますが、その間、稚魚豊度は大きく変動しています。

来年以降も調査を継続し、稚魚密度と資源量との関係を明らかにし、漁況予測出来るよう取り組んでいきます。

(資源管理部 松谷紀明)

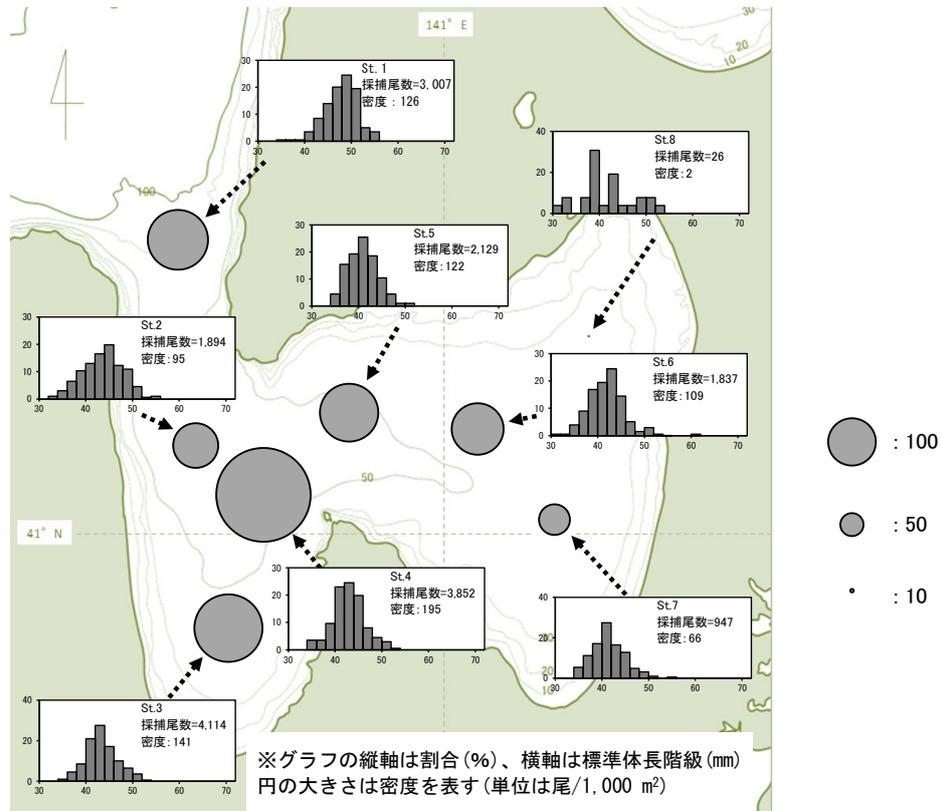


図1 陸奥湾マダラ稚魚分布密度と標準体長組成結果(2024年5月)

(試験船青鵬丸によるオッタートロール)

表1 地点別標準体長別採捕尾数(マダラ)

モード:

単位: 尾

標準体長 (mm)	St. 1 N=3, 007	St. 2 N=1, 894	St. 3 N=4, 114	St. 4 N=3, 852	St. 5 N=2, 129	St. 6 N=1, 837	St. 7 N=947	St. 8 N=26
20 ≦ - < 22								
22 ≦ - < 24								
24 ≦ - < 26								
26 ≦ - < 28								
28 ≦ - < 30		9						
30 ≦ - < 32						9		1
32 ≦ - < 34		19				10	1	2
34 ≦ - < 36	15	57	41	134	95	72	51	
36 ≦ - < 38	15	122	184	135	328	165	106	2
38 ≦ - < 40	15	196	349	371	411	310	162	8
40 ≦ - < 42	104	246	863	886	543	358	260	1
42 ≦ - < 44	255	313	1, 131	945	395	450	156	5
44 ≦ - < 46	420	376	701	766	221	266	121	1
46 ≦ - < 48	604	232	412	308	95	95	46	1
48 ≦ - < 50	737	207	267	172	21	28	30	2
50 ≦ - < 52	588	86	146	115	21	54	9	2
52 ≦ - < 54	150	11	20	19		9		1
54 ≦ - < 56	104	19				1	6	
56 ≦ - < 58								
58 ≦ - < 60								
60 ≦ - < 62						9		
62 ≦ - < 64								
64 ≦ - < 66								
66 ≦ - < 68								
68 ≦ - < 70								
70 ≦ - < 72								
72 ≦ - < 74								
74 ≦ - < 76								
計	3, 007	1, 894	4, 114	3, 852	2, 129	1, 837	947	26

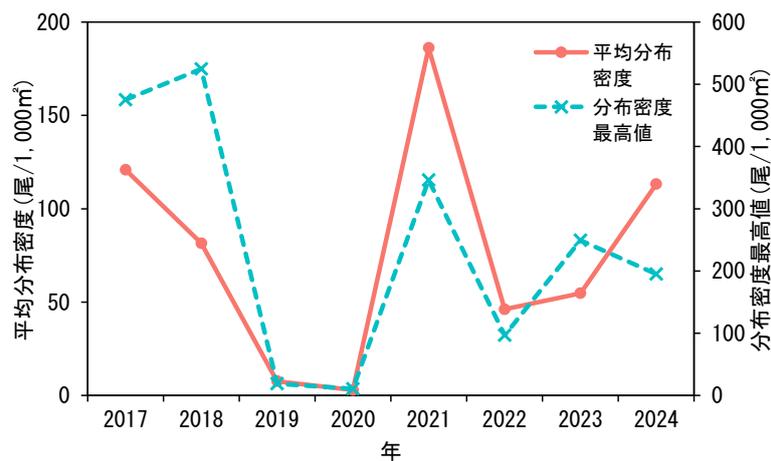


図2 5月の陸奥湾マダラ稚魚分布密度の経年変化(2017年-2024年)